



CHAPTER 8

機能、テンプレート、サービス、およびユーザの設定

Cisco Unified IP Phone をネットワークに設置し、ネットワークの設定値を設定して、IP Phone を Cisco Unified Communications Manager に追加した後は、Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションを使用して、テレフォニー機能を設定する必要があります。必要に応じて、電話テンプレートの修正、サービスのセットアップ、ユーザの割り当ても行います。

この章では、これらの設定およびセットアップについて、手順の概要を示します。これらの手順の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

機能に関する情報をユーザに提供する方法、および提供する内容に関する推奨事項については、[付録 A 「Web サイトによるユーザへの情報提供」](#) を参照してください。

英語以外の環境での電話機のセットアップについては、[付録 B 「各言語ユーザのサポート」](#) を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- 「[Cisco Unified IP Phone で使用可能なテレフォニー機能](#)」 (P.8-2)
- 「[プロダクト固有の設定パラメータの設定](#)」 (P.8-27)
- 「[社内ディレクトリとパーソナルディレクトリの設定](#)」 (P.8-28)
- 「[機能ボタンとソフトキー](#)」 (P.8-29)
- 「[パーク モニタリング](#)」 (P.8-23)
- 「[電話ボタン テンプレートの変更](#)」 (P.8-31)
- 「[機能管理ポリシーの設定](#)」 (P.8-34)
- 「[サービスのセットアップ](#)」 (P.8-35)
- 「[Cisco Unified Communications Manager へのユーザの追加](#)」 (P.8-36)
- 「[ユーザ オプション Web ページの管理](#)」 (P.8-36)
- 「[機能の設定](#)」 (P.8-39)

Cisco Unified IP Phone で使用可能なテレフォニー機能

Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager に追加した後、電話機に機能を追加できます。表 8-1 に、サポートされているテレフォニー機能を示します。これらの多くは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定できます。この表の「参照先」欄は、設定の手順と関連情報が記載された Cisco Unified Communications Manager やその他のマニュアルを示しています。

電話機のほとんどの機能の使用方法の詳細については、『*Cisco Unified IP Phone 8961, 9951, and 9971 User Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。また、プログラム可能なボタンとして設定できる機能の一覧は表 8-4 を参照してください。表 8-4 には、機能がソフトキーと専用機能ボタンのいずれかであるかも示されています。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページには、各種のテレフォニー機能を設定するためのサービス パラメータもいくつかあります。サービス パラメータへのアクセスと設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。サービスの機能の詳細については、[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、パラメータの名前または疑問符のヘルプ ボタンをクリックしてください。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能

機能	説明	設定の参照先
エージェント グリーティング	<p>エージェントが事前録音したグリーティングを作成したり更新したりできるようにします。このグリーティングは、エージェントが発信者と話し始める前に、顧客コールなどのコールの開始時に再生されます。エージェントは、必要に応じて 1 つまたは複数のグリーティングを事前録音し、グリーティングを作成および更新できます。</p> <p>顧客がコールを発信したときに、両方の発信者に対して、事前録音されたグリーティングが再生されます。エージェントは、グリーティングが終わるまで待つこともできますし、グリーティングの途中で応答することもできます。</p> <p>エージェント グリーティング コールでは、電話機でサポートされるすべてのコーデックがサポートされます。</p> <p>Cisco Unified CM の管理アプリケーションでエージェント グリーティングを有効にするには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、設定する IP Phone を指定します。[デバイス情報レイアウト (Device Information Layout)] ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [オン (On)] または [デフォルト (Default)] に設定します。</p> <p>[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [デフォルト (Default)] に設定した場合は、Cisco Unified CM の管理アプリケーションで [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameter)] を選択し、適切なサーバとサービスを選択します。[クラスタ全体にわたるパラメータ (デバイス - 電話機) (Clusterwide Parameters (Device - Phone))] ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ有効 (Built In Bridge Enable)] を [オン (On)] に設定します。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」
すべてのコール	ユーザがすべての電話回線のすべてのアクティブコールの一覧を表示できます。一覧は古いものから時系列に並んでいます。	詳細については、「 すべてのコールに関する電話ボタン テンプレートの変更 」(P.8-31) を参照してください。
匿名コール ブロック	ユーザが匿名のコールを拒否できます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「 SIP Profile Configuration 」の章を参照してください。
任意のコール ピックアップ	CTI アプリケーションでリダイレクトされたコールを、ユーザがピックアップできます。コールが電話機にどのようにルートされたかには関係なく、コール ピックアップ グループの任意の回線でピックアップできます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「 Call Pickup 」の章を参照してください。
応答 (最も古いコール)	状態が変化している保留復帰コールやパーク復帰コールも含めて、ユーザの電話機のすべてのライン アピアランスに含まれるコールの中で最も古いコールに応答できます。	プログラム可能な機能ボタンとして設定する以外の設定は不要です。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
処理されたダイレクトコールパーク	エンドユーザが 1 つのボタンを押すだけでコールをダイレクトパークできます。このためには、[BLF ダイレクトコールパーク (BLF Directed Call Park)] ボタンを設定する必要があります。その後、ユーザがアクティブコールに対してアイドルの [BLF ダイレクトコールパーク (BLF Directed Call Park)] 機能ボタンを押すと、[ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)] 機能ボタンに関連付けられた Dpark スロットにアクティブコールがすぐにパークされます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「 Call Pickup Configuration 」の項を参照してください。
自動応答	呼出音を 1 ～ 2 回鳴らした後に、着信コールを自動的に接続します。 自動応答は、スピーカフォンとヘッドセットのどちらでも機能します。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「 Directory Number Configuration 」の章を参照してください。
自動ダイヤル	電話機のユーザがダイヤルするときに、発信履歴から該当する番号を選択できます。コールを発信するには、ユーザは自動ダイヤルリストから番号を選択するか、引き続き手動で番号を入力することができます。	設定は必要ありません。
自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)	Cisco Unified CM 管理者がリモートポート設定機能を使用して IP Phone の速度とデュプレックス機能をリモートで設定した場合、一方のポートの速度が他方のポートよりも遅くなると、パケットの損失が生じることがあります。 自動ポート同期機能を使用すれば、2 つのポートは最も低い速度に同期されるので、パケット損失が解消されます。自動ポート同期が有効になっている場合は、両方のポートに自動ネゴシエーションを設定することを推奨します。一方のポートで自動ネゴシエーションを有効にし、他方のポートの速度を固定にすると、電話機は固定されたポートの速度に同期されます。 (注) 両方のポートを固定速度に設定すると、自動ポート同期機能は無効になります。 (注) リモートポート設定と自動ポート同期の機能を使用できるのは、IEEE 802.3AF Power of Ethernet (PoE) スイッチだけです。シスコインラインパワーのみをサポートするスイッチとは互換性がありません。このタイプのスイッチに接続されている電話機でこの機能を有効にして、PoE で電話機に電源を供給した場合、Cisco Unified CM との接続が失われる可能性があります。	詳細については、「 自動ポート同期の設定 (P.8-39) 」を参照してください。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
割り込み	<p>ユーザは、共有電話回線でプライベート コール以外のコールに参加できます。割り込み機能によってユーザがコールに追加されると、そのコールは会議に変換されるので、ユーザおよび他の参加者は会議機能にアクセスできるようになります。</p> <p>(注) [Built in Bridge Enable] サービスパラメータがオフに設定されていても、Cisco Unified IP Phone は割り込みを行うことができます。Cisco Unified IP Phone でユーザが割り込み機能を使用できないようにするには、電話機の [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] で [割り込み (Barge)] を無効にする必要があります。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Feature Control Policy Configuration」の章。
Bluetooth プロファイル (Bluetooth Profiles)	<p>Cisco Unified Phone 9951 および 9971 の Bluetooth プロファイルを選択できます。次の 2 つのプロファイルがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハンズフリー ヒューマン インターフェイス デバイス 	<p>詳細については、「Bluetooth プロファイルの設定」(P.8-39) と『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。</p>
外線から外線への転送のブロック	<p>外線コールをユーザが別の外線コールに転送することを禁止します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「External Call Transfer Restrictions」の章を参照してください。</p>
ビジー ランプ フィールド (BLF)	<p>ユーザは、電話機のスピードダイヤル ボタン、コール ログまたはディレクトリの一覧に関連付けられている電話番号のコール状態をモニタできます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Presence」の章を参照してください。</p>
ビジー ランプ フィールド (BLF) ピックアップ	<p>BLF スピードダイヤルの拡張機能です。ユーザが着信コールをモニタリングできるように、電話番号を設定できます。電話番号が着信コールを受信すると、モニタリングしているユーザに対してシステムからアラートが発生し、コールをピックアップすることができます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>
コールバック	<p>通話の相手が話し中や通話不能だった場合、その相手が通話可能になったときに、ユーザの電話機に音声による通知と画面表示による通知が送信されます。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Call Back」の章。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
Call Chaperone	<p>承認されたコール監視人ユーザが、コールを管理および録音します。</p> <p>(注) この機能を使用できるのは、この表の後半で説明する外部コール制御機能も設定されている場合だけです。</p> <p>コール監視人ユーザは、発信側からのコールを代行受信して応答し、その発信側に対して手動で会議を作成し、コールの管理と録音のために会議に留まります。コール監視人機能が設定された Cisco Unified IP Phone には、[録音 (Record)] ソフトキーが表示されます。コール監視人ユーザは、[録音 (Record)] ソフトキーを押してコールを録音します。</p> <p>監視されたコールでは、コールの開始時にアナウンスが再生されるか、参加者の 1 人がアナウンスします。アナウンスにより、コールに後から参加した人にコールが録音されていることが通知されます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「External Call Control」の章を参照してください。</p>
コール表示の制限	<p>発信回線および接続回線について表示する情報を、コールに関係する通話相手に応じて決定します。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Display Restrictions」の章。
コール転送	<p>ユーザが着信コールを別の番号にリダイレクトできるようにします。コール転送オプションには、すべてのコールの転送、話中転送、無応答時転送、およびカバレッジなし時転送があります。</p> <p>コール転送オプションは、回線ごとに割り当てることができます。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章。 「ユーザ オプション Web ページに表示するオプションの指定」(P.8-38)
全コール転送ループ発生警告	<p>不在転送ループを検出して防止します。不在転送ループが検出されると、[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の設定が無視されて呼出音が鳴ります。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。</p>
全コール転送ループ防止	<p>ユーザが、[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の接続先を電話機で直接設定する際に、不在転送ループが生じたり、既存の Forward Maximum Hop Count サービス パラメータに定められたホップ数の上限を超える不在転送チェーンが生じたりしないように防止します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。</p>

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
コール転送の宛先の無効化	管理者は、すべてのコールの転送 (CFA) の接続先が CFA の転送元にコールを発信する場合には CFA を無効にすることができます。この機能により、CFA の接続先は、重要なコールがある場合に CFA の転送元に到達できるようになります。この無効化は、CFA の接続先の電話番号が内部か外部かに関係なく動作します。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i> 』の「 Understanding Directory Numbers 」の章を参照してください。
コールの転送通知	転送されたコールを受信したときに表示される情報を設定できます。	詳細については、「 コールの転送通知の設定 」(P.8-40) を参照してください。
コール パーク	ユーザがコールをパーク (一時的に保存) し、Cisco Unified Communications Manager システムの別の電話機を使用してそのコールに回答できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Call Park and Directed Call Park 」の章を参照してください。
コール ピックアップ	<p>ユーザが、コールをリダイレクトして、同僚の電話機で呼出音が鳴っているコールに回答できます。次のようにコール ピックアップ機能を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザは、自分のピックアップグループに属する別の電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。 ユーザが、特定の電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに回答することができます。 ユーザが、別のグループの電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに回答することができます。 ユーザは、自分のグループに関連付けられている別のグループの電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールに回答できます。 <p>コール ピックアップのためにワンタッチのピックアップ機能を使用できるように、電話機を設定できます。</p> <p>電話機のプライマリ回線に、音声によるアラートと画面表示によるアラートを設定できます。これらのアラートによって、ピックアップグループ内でコールの呼び出しがあることが通知されます。</p>	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Call Pickup 」の章を参照してください。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
コール録音	<p>スーパーバイザは、アクティブ コールを記録できます。コールが記録されている場合、コール中に記録音声アラート トーンがユーザに聞こえることがあります。</p> <p>コールがセキュアな場合、そのコールのセキュリティ ステータスが Cisco Unified IP Phone に鍵のアイコンとして表示されます。コールがセキュアであり、記録されていることを示す音声アラート トーンは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>コールがモニタまたは録音されているとき、インターコム機能は無効になります。</p> <p>アクティブ コールがモニタまたは記録されている場合、インターコムコールの受信または発信は可能ですが、インターコムコールを発信するとアクティブ コールが保留になります。これにより、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは一時停止されます。モニタリングセッションを再開するには、コールをモニタされている通話者がコールを再開する必要があります。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。</p>
コール待機	<p>コールの最中に別の着信コールの呼出音が鳴っていることを通知し、ユーザが応答できるようにします。着信コールの情報を電話スクリーンに表示します。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。</p>
発信者 ID	<p>電話番号、名前、その他の説明テキストなど、発信者の識別情報を電話スクリーンに表示します。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章。 『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Understanding Route Plans」の章。 『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Call Display Restrictions」の章。 『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Directory Number Configuration」の章。
発信者 ID ブロック	<p>発信者 ID が有効になっている電話機から、ユーザが自分の電話番号または電子メールアドレスをブロックできるようにします。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Understanding Route Plans」の章。 『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Directory Number Configuration」の章。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
発信側の正規化	着信コールの発信者番号をグローバル化またはローカライズして、適切な電話番号を電話機に表示します。国際エスケープ文字「+」をサポートしています。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Features and Services Guide</i> 』の「 Calling Party Normalization 」の章を参照してください。
SIP の CAST サポート	Cisco Unified Video Advantage (CUVA) と Cisco Unified IP Phone の間の通信を確立し、IP Phone がビデオ機能を装備していない場合でも PC でビデオを使用できるようにします。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』を参照してください。
Cisco エクステンション モビリティ	ユーザが共有の Cisco Unified IP Phone から Cisco エクステンション モビリティ サービスにログインし、その電話機で自分の Cisco Unified IP Phone の設定 (ライン アピラランス、サービス、スピードダイヤルなど) に一時的にアクセスできます。 Cisco エクステンション モビリティは、社内の複数の場所でユーザが業務を行う場合や、作業場を同僚と共有する場合に便利です。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Cisco Extension Mobility 」の章を参照してください。
Cisco エクステンション モビリティの PIN 変更	Cisco Unified IP Phone からユーザが PIN を変更できます。 PIN は次のようにして変更できます。 <ul style="list-style-type: none"> エクステンション モビリティのログアウト画面で [PIN 変更 (ChangePIN)] ソフトキーを使用します。 電話機でクレデンシャル IP Phone サービスの変更を設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Cisco Extension Mobility」の章を参照してください。 クレデンシャル サービスの変更による PIN の変更については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration</i>』の「Configuring the Change Credential IP Phone Service」の項を参照してください。
クラスタ間の Cisco エクステンション モビリティ	特定のクラスタで設定されたユーザが、別のクラスタにある Cisco Unified IP Phone にサインインできます。 ユーザはホーム クラスタから、訪問先クラスタにある Cisco Unified IP Phone にサインインします。 EMCC を設定する前に、Cisco Unified IP Phone で Cisco エクステンション モビリティを設定してください。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Cisco Extension Mobility Cross Cluster 」の章を参照してください。
Cisco WebDialer	Web およびデスクトップ アプリケーションから電話をかけることができます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Cisco Web Dialer 」の章を参照してください。
Client Matter Code (クライアント識別コード)	有効にした場合、ユーザは、コードを入力して、コールが特定のクライアント識別に関連することを特定する必要があります。	詳細については、「 クライアント識別コードの設定 (P.8-41) と、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「 Route Pattern Configuration 」の項を参照してください。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
Conference	<ul style="list-style-type: none"> ユーザは、各参加者を個別に呼び出して、複数の通話相手と同時に話すことができます。 標準 (アドホック) 会議では、開催者以外でも参加者を追加または削除できます。 ユーザが、同一電話回線にある 2 つ以上のコールを 1 つの電話会議として接続したうえで、そのコールに留まることができます。 	<p>これらの機能を有効にするには、Advance Adhoc Conference サービス パラメータ (Cisco Unified Communications Manager の管理ページではデフォルトで無効になっています) を使用します。</p> <p>会議の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Conference Bridges」の章を参照してください。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。</p> <p>(注) ユーザに対し、これらの機能がアクティブであるかどうかを必ず通知してください。</p>
CTI アプリケーション	Computer Telephony Integration (CTI) ルートポイントでは、仮想デバイスを指定して、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「 CTI Route Point Configuration 」の章を参照してください。
ダイレクト コール パーク	<p>ユーザが、使用可能なダイレクト コール パーク番号をダイヤルまたはスピードダイヤルし、その番号にアクティブなコールを転送できる機能です。</p> <p>コール パーク BLF ボタンは、ダイレクト コール パーク番号が使用中かどうかを表示するとともに、ダイレクト コール パーク番号へのスピードダイヤル アクセスにも使用できます。</p>	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「 Call Park and Directed Call Park 」の章を参照してください。
即転送	<p>ユーザは、呼び出し中のコール、接続されたコール、または保留中のコールを、ボイス メッセージ システムまたは話し中のコール先に直接転送できます。転送は、強調表示にしたコールだけに作動します。着信コールは自動的に強調表示されません。ユーザが最初のコールに応答しているときに別のコールの呼出音が鳴ると、ユーザが 2 番目のコールを強調表示にしない限り、転送は最初のコールに対して作動します。コールを転送した場合、その回線は新しいコールの発信または受信に使用できるようになります。</p> <p>拡張即時転送機能を有効にすると、ユーザが着信コールを自分のボイス メッセージング システムまたは元の着信側のボイス メッセージング システムに直接転送できます。</p>	<p>ボイスメールへのコール転送の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Immediate Divert」の章を参照してください。</p> <p>拡張即時転送機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。</p>
デュアル バンク 情報	<p>Cisco Unified CM 管理者は、以前のロードを非アクティブ ロードにリセットする前に、新しいロードで電話機のファームウェアをアップグレードできます。</p> <p>Cisco Unified CM 管理者は、アクティブ ロードと非アクティブ ロードが正しく交換されたかどうかを検証できます。</p>	詳細については、「 デュアル バンク 情報の設定 」(P.8-41) を参照してください。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
サイレント (DND)	<p>DND をオンにすると、コールが呼び出し状態になっても呼出音が鳴らなくなります。またあらゆる種類の表示や音による通知も、一切行われません。</p> <p>電話ボタン テンプレートの機能の 1 つとして DND を選択して、電話機を設定できます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、次の DND 関連のパラメータを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [サイレント (Do Not Disturb)]: このチェックボックスを使用すると、DND を電話機ごとに有効にすることができます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の設定 (Phone Configuration)] を選択します。 [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]: 電話機で DND がアクティブのときに着信コールに対して発生させるアラート (存在する場合) のタイプを選択します。このパラメータは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウおよび [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方にあります ([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが優先されます)。 [DND を示す BLF ステータス (BLF Status Depicts DND)]: ビジーまたはアイドル状態を DND ステータスで上書きできます。 	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager <i>Features and Services Guide</i>』の「Do Not Disturb」の章を参照してください。</p>
EnergyWise	<p>省エネのために、あらかじめ決められた時刻に IP Phone をスリープ (電源オフ) および復帰 (電源オン) させることができます。</p>	<p>詳細については、「Cisco Unified IP Phone で EnergyWise を有効にする」(P.9-9) を参照してください。</p>
外部コール制御	<p>Cisco Unified Communications Manager が、ルーティングルールをホストするルート サーバにオーディオ コールとビデオ コールをルーティングできます。</p> <p>ルータ サーバは、Cisco Unified Communications Manager からのルーティング要求を受け取ると、Cisco Unified Communications Manager にルーティング指示を返します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager <i>Features and Services Guide</i>』の「External Call Control」の章を参照してください。</p>
ファストダイヤルサービス	<p>ユーザは、ファストダイヤルコードを入力してコールを発信できます。ファストダイヤルコードは、電話番号または [個人アドレス帳 (Personal Address Book)] エントリに割り当てることができます。この表の「サービス」を参照してください。</p>	<p>詳細については、「個人アドレス帳やスピードダイヤルに関する電話ボタン テンプレートの変更」(P.8-32) を参照してください。</p>
強制承認コード	<p>ユーザは、コールを発信するために承認コードを入力する必要があります。特定のユーザが発信できるコールのタイプを制御します。</p>	<p>詳細については、「強制承認コードの設定」(P.8-41) と、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Route Pattern Configuration」の項を参照してください。</p>

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
保留復帰	<p>コールの保留時間を制限します。制限時間が経過すると、コールは保留にした側の電話機に復帰し、ユーザにアラートが通知されます。</p> <p>復帰コールの通知は、着信コールの場合とは異なり、1 回の呼出音（回線の新規コールインジケータの設定によってはビープ音）によって行われます。この通知は、コールが再開されるまで、一定の間隔で繰り返されます。</p> <p>また、コールが保留復帰した場合は、コールバブルにアニメーションのアイコン、ステータス行に短いメッセージが表示されます。</p> <p>コールのフォーカス優先度を着信コールまたは復帰コールのどちらかに設定できます。</p>	<p>この機能の設定方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Hold Reversion」の章を参照してください。</p>
保留状態	<p>共有回線を持つ電話機では、ローカル回線とリモート回線のいずれがコールを保留したのかを区別できます。</p>	<p>設定は必要ありません。</p>
保留/復帰	<p>ユーザは、接続されたコールをアクティブな状態から保留状態に移行できます。</p> <p>コールを保留にするには、保留ボタンを選択します。コールを再開するには、保留コールがある回線を選択して、[復帰 (Resume)] ソフトキーを選択します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 設定は必要ありません。ただし、保留音を使用する場合には必要です。この表の「保留音」を参照してください。 この表の「保留復帰」を参照してください。
ハントグループ表示	<p>主要な電話番号へのコールに対して、ロードシェアリングを行います。ハントグループには、着信コールに応答できる一連の電話番号が含まれています。</p> <p>ハントグループに含まれる電話番号に着信コールがあると、この機能によって、発信側の他に主要な電話番号が表示されます。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Hunt Group Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「CTI Route Point Configuration」の章。
着信コール Toast タイマー	<p>電話機の画面に着信コール Toast (通知) が表示される時間を設定できます。</p>	<p>詳細については、「着信コール Toast タイマーの設定」(P.8-42) を参照してください。</p>

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
インターコム	<p>ユーザが、プログラム可能な電話のボタンを使用して、インターコムコールを発信したり受信したりできます。インターコム回線のボタンを設定すると、次を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定のインターコム内線番号への直接的なダイヤル。 インターコムコールを開始してから、有効なインターコム番号の入力をユーザに要求。 <p>(注) ユーザが毎日同じ電話機にログインする場合は、それらのユーザの Cisco エクステンション モビリティのプロファイルを使用し、インターコム情報を含む電話ボタンテンプレートをユーザのプロファイルに割り当て、その電話機をインターコム回線のデフォルトのインターコム デバイスとして指定します。</p> <p>(注) インターコム機能は、エクステンション モビリティ クロス クラスタをサポートしていません。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Feature and Services Guide</i>』の「Intercom」の章を参照してください。</p>
Intelligent Session Control	<p>ユーザの携帯電話に対して会社から発信されたコールを、会社の番号に再ルーティングします。このコールは、ユーザのデスク上の電話機ではなくユーザの携帯電話だけを呼び出します。携帯電話でコールに応答すると、デスクの電話機に「リモートで使用 (Remote in Use)」というメッセージが表示されます。このようなコールでは、ユーザは携帯電話の多様な機能を使用できます。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。</p>
回線選択	<p>この機能が無効な場合 (デフォルト)、呼び出されている回線が選択されます。有効にすると、コールの呼び出しが別の回線で鳴っていてもプライマリ回線がピックアップされます。ユーザは他の回線を手動で選択する必要があります。</p> <p>(注) エクステンション モビリティでは、この機能を有効または無効にできます。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の次の章で、[常にプライム回線を使用する (Always use prime line)] オプションを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Device Profile Configuration」 「Common Phone Profile Configuration」 「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」
ボイス メッセージ用回線選択	<p>無効な場合 (デフォルト)、メッセージ ボタンを押すとボイス メッセージのある回線が選択されます。複数の回線にボイス メールがある場合は、使用可能な最初の回線が選択されます。有効にすると、ボイス メッセージの取得にはプライマリ回線が常に使用されます。</p> <p>(注) エクステンション モビリティでは、この機能を有効または無効にできます。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の次の章で、[ボイス メッセージには常にプライム回線を使用する (Always use prime line for voice message)] オプションを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Device Profile Configuration」 「Common Phone Profile Configuration」 「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
ハントグループからのログアウト	ユーザは、コールを受けることができない場合に、ハントグループからサインアウトし、一時的にユーザの電話機で呼出音が鳴らないようにすることができます。ハントグループからログアウトしても、ハントグループ以外のコールでは、引き続き電話機で呼出音が鳴ります。	詳細情報 <ul style="list-style-type: none"> 「サービスのセットアップ」(P.8-35) を参照してください。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章。
Malicious Caller Identification (MCID; 迷惑呼 ID)	ユーザは、[発信者の報告 (Report Caller)] ボタンまたはソフトキーを使用して、受信している不審なコールについてシステム管理者に通知できます。	詳細については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Malicious Call Identification」の章。
ミーティング会議	ユーザが、ミーティング会議を開始し、参加ユーザは予定の時刻に、あらかじめ決められた番号にコールをかけます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「 Meet-Me Number/Pattern Configuration 」の章を参照してください。
メッセージ受信 (Message Waiting)	メッセージ受信オンインジケータおよびオフインジケータ用の電話番号を定義します。直接接続型のボイスメッセージシステムでは、指定された電話番号を使用して、特定の Cisco Unified IP Phone のメッセージ受信インジケータを設定したりクリアしたりします。	詳細については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Message Waiting Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章。
メッセージ受信インジケータ	ハンドセットのランプの 1 つで、ユーザに対する 1 つまたは複数の新着ボイスメッセージが届いていることを示します。	詳細については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Message Waiting Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章。
メッセージ受信インジケータ (MWI)	MWI は、360 度どの位置からでも見えるビジュアルインジケータであり、可聴メッセージ受信インジケータでもあります。ユーザは自分のユーザオプション Web ページにログインし、メッセージインジケータ設定にアクセスして、ハンドセットのボイスメッセージライトと、電話機のオーディオボイスメッセージインジケータを変更します。ユーザは設定のオンとオフを切り替えます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「 Cisco Unified IP Phone 」の章を参照してください。
不在着信履歴	所定のラインアピランスの不在着信を不在着信履歴に記録するかどうかをユーザが指定できます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「 Directory Number Configuration 」の章を参照してください。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
モバイル コネクト	ユーザは、1 つの電話番号を使用してビジネスコールを管理したり、デスクトップ電話機および携帯電話などのリモートデバイスで、進行中のコールをピックアップしたりすることができます。また、電話番号や時刻に応じて、発信者グループを制限できます。 この表の「セッション ハンドオフ」も参照してください。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Cisco Unified Mobility 」の章を参照してください。
モバイル ボイス アクセス	モバイル コネクト機能が拡張され、ユーザは Interactive Voice Response (IVR; 自動音声応答) システムにアクセスして、携帯電話などのリモートデバイスからコールを発信できるようになります。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Cisco Unified Mobility 」の章を参照してください。
1 ライン アピアランスでの複数コール	各回線は複数のコールに対応できます。ある時点では 1 コールだけがアクティブになることができ、他のコールは自動的に保留になります。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i> 』の「 Understanding Directory Numbers 」の章を参照してください。
保留音	発信者が保留状態になっている間、音楽を再生します。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Music On Hold 」の章を参照してください。
ミュート	ハンドセットやヘッドセットからのマイク音声をミュートします。	設定は必要ありません。
オンフック ダイヤル	ユーザは、オフフックにすることなく、番号をダイヤルできます。その後で、ハンドセットを取って [コール (Call)] ソフトキーを押すか、ヘッドセット ボタンあるいはスピーカ ボタンを押すと、通話を開始できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified IP Phone 9971 User Guide for Cisco Unified Communications Manager (SIP)</i> 』の「 Calling Features 」の章を参照してください。
パーク モニタリング	パークされているコールのステータスをモニタします。パーク中のコールが取得されるか、またはパーク取得者によって破棄されるまで、パーク モニタリング コール バブルはクリアされません。このようなパークされたコールは、パークを行った電話機で同じコール バブルを使用して取得できます。	詳細については、「 パーク モニタリング 」(P.8-23) を参照してください。 コール パークの詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 Call Park and Directed Call Park 」の章を参照してください。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
ピア ファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing)	<p>ピア ファームウェア共有機能を使用すると、高速キャンパス LAN 設定において次の利点が得られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央集中型リモート TFTP サーバへの TFTP 転送における輻輳が制限されます。 ファームウェアのアップグレードを手動で制御する必要がなくなります。 アップグレード時に多数のデバイスが同時にリセットされた場合の電話機のダウンタイムが削減されます。 <p>帯域幅が制限された WAN リンクを経由するブランチまたは遠隔オフィス導入シナリオでは、ピア ファームウェア共有がファームウェアのアップグレードに役立つ場合もあります。</p> <p>この機能が有効の場合、電話機は、ファームウェアイメージを構成するファイルを要求しているサブネット上の同じ電話機を検出し、転送階層をファイル単位で自動的に構築できます。ファームウェアイメージを構成する個々のファイルは、階層内のルートの電話機だけを使用して TFTP から取得され、TCP 接続によって転送階層に沿ってサブネット上の他の電話機に迅速に転送されます。</p> <p>このメニュー オプションは、電話機がピア ファームウェア共有をサポートしているかどうかを示します。次の設定があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [有効 (Enabled)]: デフォルト [無効 (Disabled)] <p>(注) 電話機のファームウェア リリース 9.1(1) は、HTTP と TFTP のファームウェアダウンロード方法をサポートしています。</p>	<p>詳細については、「ピア ファームウェア共有の設定」(P.8-42) を参照してください。</p>
電話機のセキュア Web アクセス	<p>Cisco Unified IP Phone では、電話の信頼性と呼ばれる電話信頼ストアを使用して Web にセキュアにアクセスできるようになりました。</p>	『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Security Overview」の章。
プラス ダイヤル	<p>ユーザは、先頭に「+」記号を付けて E.164 番号をダイヤルできます。</p> <p>+ 記号をダイヤルするには、「*」キーを 1 秒以上押し続ける必要があります。これは、オンフックかオフフックのコールに対してのみ、先頭桁をダイヤルするときに当てはまります。</p>	設定は必要ありません。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
LLDP での電力ネゴシエーション	<p>電話機で、LLDP プロトコルと CDP プロトコルを使用して、電力をネゴシエートできます。</p> <p>電力ネゴシエーションをサポートしているスイッチに接続している場合は、電力ネゴシエーションを無効にしないでください。無効にした場合、スイッチによって電話機に対する電力がオフになる可能性があります。</p>	<p>電力ネゴシエーションは、デフォルトで有効になっています。</p> <p>電力ネゴシエーションの設定を無効に変更するには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] で、[電力ネゴシエーション (Power Negotiation)] ドロップダウンリストボックスから [無効 (Disabled)] を選択します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。</p>
プレゼンス対応ディレクトリ	<p>ユーザが、コールログ、スピードダイヤルおよび社内ディレクトリの一覧に含まれる別の Directory Number (DN; 電話番号) のコール状態をモニタできます。DN の Busy Lamp Field (BLF; ビジーランプ フィールド) にコール状態が表示されます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Presence」の章を参照してください。</p>
プライバシー	<p>回線を共有しているユーザが、コールに自分を追加すること、および他のユーザのコールに関する情報を電話スクリーンに表示することを禁止します。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」の章。
Private Line Automated Ringdown (PLAR)	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理者は、ハンドセットをオフフックにすると Cisco Unified IP Phone がただちにダイヤルする電話番号を設定できます。この機能は、緊急連絡や「ホットライン」の番号にコールするための電話機を用意する場合に役立ちます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。</p>
プログラム可能な機能ボタン	<p>プログラム可能なキーに管理者が機能を割り当てるができます。管理者が機能ボタンに機能を設定すると、それらのボタンは常にユーザに対して表示され、ユーザが使用できます。たとえば、管理者は電話機に専用のピックアップ ボタンを割り当てられます。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Phone Button Template Configuration」の章。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
保護コール	2 台の電話機の間にはセキュアな (暗号化された) 接続を提供します。コールの開始時にはセキュリティトーンが再生され、両方の電話機が保護されていることを通知します。保護コールを設定すると、一部の機能 (会議コール、シェアドライン、エクステンション モビリティ、回線をまたいで参加) は使用できません。保護されたコールは認証されません。	セキュリティの詳細については、「サポートされているセキュリティ機能の概要」(P.1-18) を参照してください。 その他の情報については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。
品質 (QRT)	ユーザが電話機の [品質のレポート (Report Quality)] 機能ボタンまたはソフトキーを使用して、問題のあるコールの情報を送信します。QRT は、QRT に必要なユーザ インタラクションの量に応じて、2 つのユーザ モードのどちらかに設定できます。	詳細については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Quality Report Tool」の章。
リダイヤル (Redial)	ユーザは、[リダイヤル (Redial)] ソフトキーを押して、最後にダイヤルした電話番号にコールをかけることができます。	設定は必要ありません。
リモート ポート設定	管理者は、Cisco Unified CM の管理を使用して、電話機のイーサネット ポートの速度とデュプレックス機能をリモートで設定できます。これにより、具体的なポート設定を伴う大規模な導入のパフォーマンスが向上します。 (注) Cisco Unified CM のリモート ポート設定用にポートが設定されている場合は、電話機のデータを変更することはできません。	詳細については、「リモート ポート設定」(P.8-43) を参照してください。
呼出音の設定	電話機に別のアクティブ コールが着信したときに、回線で使用される呼出音タイプを指定します。	詳細については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章。 「カスタム電話呼出音の作成」(P.9-2)。
呼出音	ユーザは、着信コールや新しいボイス メッセージを電話機で示す方法をカスタマイズできます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Custom Phone Rings」の章を参照してください。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
セキュアおよび非セキュアのインディケーション トーン	<p>Unified CM で電話機をセキュア (暗号化および信頼された) として設定した場合、その電話機には「保護」ステータスを割り当てることができます。その後、必要に応じて、保護された電話機は、コールの初めにインディケーション トーンを再生するように設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [保護されたデバイス (Protected Device)]: セキュアな電話機のステータスを保護に変更するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ>[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]>[電話の設定 (Phone Configuration)]で、[保護されたデバイス (Protected Device)]チェックボックスをオンにします。 • [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)]: 保護された電話機で、セキュアまたは非セキュアなインディケーション トーンの再生を有効にするには、[セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)]を [True] に設定します。(デフォルト設定は [False] です)。このオプションは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ>[システム (System)]>[サービスパラメータ (Service Parameters)]で設定します。サーバを選択してから、Unified CM サービスを選択します。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)]ウィンドウで、[機能 - セキュア トーン (Feature - Secure Tone)]エリア内にあるオプションを選択します。(デフォルト設定は [False] です)。 <p>保護された電話機だけで、セキュアまたは非セキュアなインディケーション トーンが再生されます。(保護されていない電話機ではトーンは聞こえません)。コール中にコール全体のステータスが変化すると、それに従ってインディケーション トーンも変化します。そのとき、保護された電話機は対応するトーンを再生します。</p> <p>このような状況にない場合、保護された電話機はトーンを再生しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • トーンを再生するオプションを有効にした場合、[セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)]オプションは有効 (True) になります。 <ul style="list-style-type: none"> – エンドツーエンドのセキュアなメディアが確立され、コール ステータスがセキュアになった場合、電話機はセキュア インディケーション トーン (間に小休止を伴う 3 回の長いビープ音) を再生します。 – エンドツーエンドの非セキュアなメディアが確立され、コール ステータスが非セキュアになった場合、電話機は、非セキュアのインディケーション トーンを再生します (間に小休止を伴う 6 回の短いビープ音)。 <p>[セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)]オプションが無効になっている場合、トーンは再生されません。</p>	設定は必要ありません。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
セキュア会議	<ul style="list-style-type: none"> セキュアな電話機で、セキュアな会議ブリッジを使用して会議コールを発信できます。 新しい参加者の追加は、[会議 (Conf)] ソフトキー、[割り込み (Barge)] ソフトキー、またはミートミー会議を使用して行われるため、すべての参加者がセキュアな電話機を使用する限りセキュア コール アイコンが表示されます。 会議の各参加者のセキュリティ レベルが [会議リスト (Conference List)] に表示されます。会議の開始側は、セキュアでない参加者を会議リストから削除できます。([Advanced Adhoc Conference] に [有効 (Enabled)] パラメータが設定されていれば、開催者でなくても会議参加者を追加または削除できます)。 	<p>セキュリティの詳細については、「サポートされているセキュリティ機能の概要」(P.1-18)を参照してください。</p> <p>詳細については、次の各項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Conference Bridges」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Conference Bridge Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』。
サービス	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページにある [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] メニューを使用して、ユーザが登録できる IP Phone サービスのリストを定義して管理できます。</p> <p>(注) 一部のサービスはデフォルトで電話機に表示されます。表示されないように無効にすることもできます。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services」の章。
サービス URL ボタン	<p>ユーザは、電話機の [サービス (Services)] メニューの代わりにプログラム可能なボタンを使用して、サービスにアクセスすることができます。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services」の章。
セッション ハンドオフ	<p>ユーザが、携帯電話からのコールを、同じ回線を共有する Cisco Unified デバイスに切り替えられます。このとき、シェアラインのすべてのデバイスのハンドセットが同時に点灯します。</p> <p>ユーザが Cisco Unified デバイスのいずれかでコールに応答した後、同じ回線を共有するその他の Cisco Unified デバイスに「リモートで使用 (Remote in Use)」というメッセージが表示されます。ただし、携帯電話からコールを切り替えられない場合、携帯電話に「会話は移動できません (Cannot Move Conversation)」というメッセージが表示されることがあります。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Unified Mobility Advantage and Cisco Unified Mobile Communicator Integration」の章。</p>
シェアド ライン	<p>複数の電話機で同じ電話番号を共有したり、電話番号を同僚と共有したりできるようにします。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。</p>

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
モニタリングおよび録音	<p>スーパーバイザは、アクティブ コールサイレント モニタリングを実行できます。スーパーバイザの音声はコールのどちらの側にも聞こえません。ユーザには、コールがモニタされている間、モニタ中であることを示す音声アラートが聞こえる場合があります。</p> <p>コールがセキュリティで保護されている場合は、ロック アイコンが表示されます。発信者にも、コールがモニタされていることを示す音声アラートが聞こえる場合があります。コールがセキュアであり、モニタされていることを示す音声アラートは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>アクティブ コールがモニタまたは録音されている場合、ユーザは、インターコムコールを受信または発信できません。ただし、ユーザがインターコムコールを発信した場合、アクティブ コールは保留されます。この場合、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは中断されます。中断されたモニタリングセッションを再開するには、モニタされているユーザがコールを再開する必要があります。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。</p>
SSH: 無効化	<p>電話機で、SSH の使用を有効または無効にします。</p>	<p>詳細については、「SSH の有効化および無効化」(P.9-12) を参照してください。</p>
ソフトキーのポリシー管理	<p>ソフトキーまたはプログラム可能な機能ボタンのいずれかとして、特定の機能を設定できます。次の機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 迷惑呼の発信者 ID • ピックアップ • グループ ピックアップ • その他のピックアップ • ミートミー • 品質レポート ツール • モビリティ 	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone」の章。 • 『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Phone Button Template Configuration」の章。
スピードダイヤル	<p>ユーザは、事前に割り当てておいたインデックスコード (1 ~ 99) を電話機のキーボードで入力することで、電話番号をすばやくダイヤルできます。</p> <p>(注) スピードダイヤル機能は、オンフックでもオフフックでも使用できます。</p> <p>インデックスコードは、ユーザが、ユーザ オプション Web ページで割り当てます。</p>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章。 • 『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone」の章。

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
Time-of-Day ルーティング	指定したテレフォニー機能へのアクセスを時間帯によって制限します。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Time Period Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Time-of-Day Routing」の章。
タイムゾーンの更新	タイムゾーンの変更に伴い、Cisco Unified IP Phone を更新します。	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Date/Time Group Configuration」の章を参照してください。</p>
転送	<p>ユーザは、接続されているコールを自分の電話機から別の番号にリダイレクトできます。</p> <p>ユーザは 2 つのコールを互いに接続できます。ユーザは回線に留まることも、回線に留まらずにコールを転送することもできます。</p>	<p>設定は必要ありません。</p>
ビデオモード	ユーザが、ビデオ会議を表示するためのビデオディスプレイモードを選択できます。これは、システムに設定されているモードによって異なります。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Conference Bridge Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Video Telephony」の章。
ビデオサポート	電話機のビデオサポートを有効にします。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Conference Bridge Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Video Telephony」の章。 『Cisco VT Advantage Administration Guide』の「Overview of Cisco VT Advantage」の章。
VPN	信頼されたネットワークの外側にある場合、または電話機と Unified CM 間のネットワークトラフィックが信頼されていないネットワークを通過する必要がある場合に、SSL を使用して、Cisco Unified IP Phone にバーチャルプライベートネットワーク (VPN) 接続を提供します。	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Configuring Virtual Private Networks」の章を参照してください。</p>

表 8-1 Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能 (続き)

機能	説明	設定の参照先
ボイス メッセージ システム	コールに応答がない場合に、発信者がメッセージを残せるようにします。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Voice-Mail Port Configuration」の章。 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章。

パーク モニタリング

パーク モニタリングがサポートされるのは、Cisco Unified IP Phone 8961、9951 または 9971 でコールをパークする場合だけです。パーク モニタリングによって、パークされたコールのステータスがモニタされます。パーク中のコールが取得されるか、またはパーク取得者によって破棄されるまで、パーク モニタリング コール バブルはクリアされません。このようなパークされたコールは、パークを行った電話機で同じコール バブルを使用して取得できます。

パーク モニタリングを設定するオプションについて次の項で説明します。

- 「パーク モニタリングのサービス パラメータの設定」 (P.8-24)
- 「[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定」 (P.8-25)
- 「[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定」 (P.8-26)

パーク モニタリングのサービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページではパーク モニタリング用に、クラスタ全体に対応する 3 種類のタイマーのサービス パラメータが提供されます。パーク モニタリング復帰タイマー、パーク モニタリング定期復帰タイマー、および未取得時のパーク モニタリング転送タイマーです。各サービス パラメータにはデフォルトが含まれており、特別な設定は必要ありません。これらのタイマー パラメータはパーク モニタリング専用です。コール パーク表示タイマーとコール パーク復帰タイマーはパーク モニタリングには使用できません。これらのパラメータの詳細については、表 8-2 を参照してください。

表 8-2 パーク モニタリングのサービス パラメータ

フィールド	説明
パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)	<p>デフォルトは 60 秒です。このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。</p> <p>このサービス パラメータに指定された値は [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [パーク モニタリング (Park Monitoring)] セクションで回線ごとに上書きできます (このウィンドウを表示するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します)。値として 0 を指定すると、[パーク モニタリング定期復帰タイマー (Park Monitoring Periodic Reversion Timer)] サービス パラメータ (以下の説明を参照) に指定された定期復帰間隔がすぐに利用されます。たとえば、このパラメータを 0 に設定し、パーク モニタリング定期復帰タイマーを 15 に設定した場合、パークしたコールについてユーザにすぐに通知され、その後も未取得時のパーク モニタリング転送タイマー (下記を参照) が時間切れになるまで 15 秒おきに通知されます。</p>
Park Monitoring Periodic Reversion Timer	<p>デフォルトは 30 秒です。このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager が、コールがパークされていることをユーザに再通知するまでに待機する間隔 (秒) を決定します。ユーザはこのような通知の際にオフフックにするだけで、パークされたコールに接続できます。コールがパークされており、未取得時のパーク モニタリング転送タイマー (以下の説明を参照) に指定した時間が経過するまでは、Cisco Unified Communications Manager はパークされているコールについてユーザに通知し続けます。値として 0 を指定すると、パークされたコールに関する定期的な通知は無効になります。</p>
Park Monitoring Forward No Retrieve Timer	<p>デフォルトは 300 秒です。このパラメータは、パーク アラーム通知が発生するまでの秒数を決定します。その後、パークされたコールは、パークしたユーザが [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで指定した未取得時のパーク モニタリング転送の接続先に転送されます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで転送先が指定されていない場合、コールは、パークされたときの回線に返されます)。[Park Monitoring Reversion Timer] サービス パラメータが時間切れになると、このパラメータが開始します。未取得時のパーク モニタリング転送タイマーが時間切れになると、コールはパークから削除され、指定された接続先に転送されるか、パークしたユーザの回線に返されます。</p>



(注) タイマーを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択し、[Clusterwide Parameters (Feature-General)] ペインで、[Park Monitoring Reversion Timer]、[Park Monitoring Periodic Reversion Timer]、[Park Monitoring Forward No Retrieve Timer] の各フィールドを更新します。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウ (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コール ルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択) には、[パーク モニタリング (Park Monitoring)] というエリアがあります。ここで、表 8-3 の 3 つのパラメータを設定できます。

表 8-3 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウのパーク モニタリング パラメータ

フィールド	説明
未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)	パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)	パークされている側が内部の場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)	このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルトは 60 秒です。 (注) 0 以外の値を設定すると、その値によって、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が上書きされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。

[ハン트パイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウでのパーク モニタリング パラメータの設定

ハン트 リストを介してルーティングされたコールがパークされているとき、未取得時のパーク モニタリング転送タイマーが時間切れになると、ハン트パイロットの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination)] パラメータの値が使用されます (空白でない場合)。この値は [ハン트パイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウ (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コール ルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハン트 (Route/Hunt)] > [ハン트パイロット (Hunt Pilot)] を選択) で設定されます。ハン트パイロットの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination)] パラメータの値が空白の場合、未取得時のパーク モニタリング転送タイマーが時間切れになると、コールは [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定された接続先に転送されます。

プロダクト固有の設定パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、次のウィンドウで Cisco Unified IP Phone に対してプロダクト固有の設定パラメータの一部を設定できます。

- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) の [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]
- [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)])
- [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)])

パラメーター一覧

上に示したいずれかの設定ウィンドウで、次のパラメータを設定できます。

- 背面 USB ポート (Cisco Unified IP Phone 9951 および 9971)
- 側面 USB ポート
- USB クラスを有効/無効にする (Enable/Disable USB Classes)
- Bluetooth (Cisco Unified IP Phone 9951 および 9971)
- Bluetooth プロファイル (Cisco Unified IP Phone 9951 および 9971 のみ)
- WLAN (Cisco Unified IP Phone 9971 のみ)
- 設定アクセス (Settings Access)
- Web アクセス (Web Access)
- ディスプレイ非点灯日 (Days Display Not Active)
- ディスプレイ点灯時刻
- ディスプレイ点灯継続時間
- ディスプレイ放置時自動消灯 (Display Idle Timeout)
- Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)
- 電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)
- 電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)
- 電話機をオフにするアイドルアタイムアウト (Phone Off Idle Timeout)
- 音声によるアラートの有効化 (Enable Audio Alert)
- EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain)
- EnergyWise シークレット (EnergyWise secret)
- EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)
- ロードサーバ (Load Server)
- RTCP
- ピア ファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing)
- Cisco Discovery Protocol (CDP) : スイッチポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): Switch Port)
- Cisco Discovery Protocol (CDP) : PC ポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): PC Port)

- Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : スイッチ ポート (Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : Switch Port)
- Link Layer Discovery Protocol (LLDP) : PC ポート (Link Layer Discovery Protocol (LLDP) : PC Port)
- 802.1X 認証 (802.1x Authentication)
- スイッチ ポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration)
- PC ポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration)
- 自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)



(注)

これらのパラメータの説明は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [?] ボタンをクリックすると表示されます。

[共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックス

パラメータを設定するときは、更新する設定ごとに [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスを選択します。このボックスをチェックしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。3 つの設定ウィンドウでパラメータを設定した場合、設定の優先順序は次のとおりです。

- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ
- [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウ
- [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウ

社内ディレクトリとパーソナル ディレクトリの設定

Cisco Unified IP Phone の連絡先ボタンを使用すると、ユーザはいくつかのディレクトリにアクセスできます。このディレクトリには次のものがあります。

- 社内ディレクトリ：ユーザが、同僚の電話番号を調べることができます。
この機能をサポートするには、社内ディレクトリを設定する必要があります。詳細については、「[社内ディレクトリの設定](#)」(P.8-28) を参照してください。
- パーソナル ディレクトリ：ユーザが、一連の個人の番号を保存できます。
この機能をサポートするには、パーソナル ディレクトリを設定するためのソフトウェアをユーザに提供する必要があります。詳細については、「[パーソナル ディレクトリの設定](#)」(P.8-29) を参照してください。

社内ディレクトリの設定

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Communications Manager と連動する Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザの認証情報と認可情報を保存するために、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリを使用しています。認証とは、ユーザがシステムにアクセスする権利を確立することです。認可とは、ユーザが使用を許可されるテレフォニー リソース、たとえば特定の電話内線などを識別することです。

LDAP ディレクトリの設定が完了すると、ユーザは電話機の社内ディレクトリ サービスを使用して、社内ディレクトリでユーザを検索できるようになります。

パーソナル ディレクトリの設定

パーソナル ディレクトリは、次の機能で構成されています。

- Personal Address Book (PAB; 個人アドレス帳)
- スピードダイヤル
- アドレス帳同期化ツール (TABSynch)

ユーザは、次の方法によってパーソナル ディレクトリにアクセスできます。

- Web ブラウザから : Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション Web ページから PAB やスピードダイヤル機能を利用できます。
- Cisco Unified IP Phone から : 連絡先を選択して、社内ディレクトリやユーザのパーソナル ディレクトリを検索できます。
- Microsoft Windows アプリケーションから : TABSynch ツールを使用して、PAB を Microsoft Windows Address Book (WAB) と同期化することができます。Microsoft Outlook Address Book (OAB) を使用するユーザは、まず OAB から Windows Address Book (WAB) にデータをインポートする必要があります。次に TabSync を使用して WAB をパーソナルディレクトリと同期化します。

Cisco IP Phone Address Book Synchronizer を使用しているユーザが、エンドユーザデータのみにはアクセスできるようにするには、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco UXL Web Service をアクティブ化します。

パーソナルディレクトリを Web ブラウザから設定するには、ユーザが自分のユーザオプション Web ページにアクセスする必要があります。管理者は、ユーザに対して URL とサインイン情報を提供する必要があります。

Microsoft Outlook と同期化するには、管理者から提供される TABSynch ユーティリティをユーザがインストールする必要があります。ユーザに配布するこの TABSynch ソフトウェアを入手するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] を選択し、[Cisco Unified IP Phone Address Book Synchronizer] を見つけてクリックします。

機能ボタンとソフトキー

表 8-4 に、ソフトキーで使用可能な機能、専用機能ボタンで使用可能な機能、さらにプログラム可能な機能ボタンとして設定する必要がある機能を示します。この表の「X」は、その機能が対応するボタンのタイプまたはソフトキーでサポートされることを意味します。2 つのボタンタイプとソフトキーのうち、プログラム可能な機能ボタンだけは Cisco Unified IP Phone の管理ページでの設定が必要です。



(注)

Cisco Unified IP Phone 8961、9951 および 9971 は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのソフトキー テンプレートを適用しません。

プログラム可能な機能ボタンの設定の詳細については、「電話ボタン テンプレートの変更」(P.8-31) を参照してください。ソフトキーまたはプログラム可能なボタンとして表示されることがある機能の設定については、「機能管理ポリシーの設定」(P.8-34) を参照してください。

表 8-4 機能とボタンおよびソフトキーの対応

機能名	専用機能ボタン	プログラム可能な機能ボタン	ソフトキー
すべてのコール		○	
応答		○	
コールバック		○	○
すべてのコールの転送		○	○
コール パーク		○	○
コール パークの回線ステータス		○	
コール ピックアップ (ピックアップ)		○	○
コール ピックアップの回線ステータス		○	
会議	○		○ (会議中のみ使用可能)
即転送			○
サイレント		○	
グループ ピックアップ		○	○
保留	○		
ハント グループ		○	
インターコム		○	
迷惑呼 ID (MCID)		○	○
ミーティング		○	○
モバイル コネクト (モビリティ)		○	○
ミュート	○		
その他のピックアップ		○	○
プライバシー		○	
品質 (QRT)		○	○
リダイヤル		○	○
スピード ダイヤル		○	○
スピード ダイヤルの回線ステータス		○	○
転送	○		○ (転送中だけ使用可能)

電話ボタン テンプレートの変更

電話ボタン テンプレートを使用すると、スピードダイヤルやコール処理機能をプログラム可能なボタンに割り当てることができます。ボタンに割り当てられるコール処理機能には、[応答 (Answer)]、[モビリティ (Mobility)]、[すべてのコール (All Calls)] が含まれます。

テンプレートの変更は、可能な限り電話機をネットワークに登録する前に行ってください。この順序に従うと、登録の実行中、カスタマイズした電話ボタン テンプレート オプションに Cisco Unified Communications Manager からアクセスできます。

電話ボタン テンプレートを変更するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)] を選択します。電話ボタン テンプレートを電話機に割り当てるには、Cisco Unified CM の管理の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)] フィールドを使用します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。



(注) Cisco Unified IP Phone 9971 に標準で搭載されているデフォルト テンプレートでは、ボタン 1 と 2 を回線用に使用します。

すべてのコールに関する電話ボタン テンプレートの変更

複数のシェアドラインを持つユーザには [すべてのコール (All Calls)] ボタンを提供することを推奨します。電話機に [すべてのコール (All Calls)] ボタンを設定すると、ユーザは次の操作を実行できます。

- [すべてのコール (All Calls)] ボタンを押すと、すべての回線の現在のコールの統合一覧を電話機に表示できます。
- [通話履歴 (Call History)] の下の [すべてのコール (All Calls)] ボタンを押すと、すべての回線のすべての不在着信の一覧を電話機に表示できます。
- ユーザがオフフックにすると、ユーザのプライマリ回線でコールを発信できます。[すべてのコール (All Calls)] のデフォルトは、すべての発信コールに関してユーザのプライマリ回線になります。

[すべてのコール (All Calls)] ボタンを追加するには、電話ボタン テンプレートを変更してから、テンプレートを電話機に割り当てる必要があります。

個人アドレス帳やスピードダイヤルに関する電話ボタン テンプレートの変更

電話ボタン テンプレートを変更して、サービス URL をプログラム可能なボタンに関連付けることができます。これを行うと、ユーザは、1 つのボタンで、PAB とスピードダイヤルにアクセスできます。電話ボタン テンプレートを変更する前に、PAB やスピードダイヤルを IP Phone サービスとして設定する必要があります。

IP Phone サービスとしての PAB またはスピードダイヤルの設定

(まだサービスでない) PAB やスピードダイヤルを IP Phone サービスとして設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] を選択します。
[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次の設定値を入力します。
- [サービス名 (Service Name)] および [ASCII サービス名 (ASCII Service Name)] : **Personal Address Book** と入力します。
 - [サービスの説明 (Service Description)] : (オプション) サービスの説明を入力します。
 - サービス URL
PAB の場合は、次の URL を入力します。
http://<Unified CM-server-name>:8080/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=pab
ファストダイヤルの場合は、次の URL を入力します。
http://<Unified-CM-server-name>:8080/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=fd
 - セキュア サービス URL
PAB の場合は、次の URL を入力します。
https://<Unified CM-server-name>:8443/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=pab
ファストダイヤルの場合は、次の URL を入力します。
https://<Unified-CM-server-name>:8443/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=fd
 - [サービス カテゴリ (Service Category)] : [XML サービス (XML Service)] を選択します。
 - [サービス タイプ (Service Type)] : [ディレクトリ (Directories)] を選択します。
 - [有効 (Enable)] : チェックボックスをオンにします。
http://<IP_address> または https://<IP_address> (Cisco Unified IP Phone がサポートするプロトコルによって異なる)
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」の章の説明に従い、必要に応じてサービス パラメータを追加、変更、または削除することができます。



- (注) サービス URL を変更した場合、IP Phone サービス パラメータを削除した場合、またはユーザの登録先の IP Phone サービス名の変更した場合は、[登録の更新 (Update Subscriptions)] をクリックして、現在のすべての登録ユーザを更新し、変更を適用する必要があります。このボタンをクリックしなければ、ユーザがそのサービスに登録して、正しい URL を再作成しなければなりません。

PAB またはファスト ダイヤル用の電話ボタン テンプレートの変更

PAB またはファスト ダイヤル用の電話ボタン テンプレートを変更するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 電話機のモデルを示します。
- ステップ 4** [コピー (Copy)] をクリックし、新しいテンプレートの名前を入力した後、[保存 (Save)] をクリックします。
[電話ボタン テンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 割り当てるボタンを特定し、特定の回線の [機能 (Features)] のドロップダウン リスト ボックスから [サービス URL (Service URL)] を選択します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックすると、サービス URL を使用した新しい電話ボタン テンプレートが作成されます。
- ステップ 7** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択して、対象の電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。
- ステップ 8** [電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストから、新しい電話ボタン テンプレートを選択します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックして変更を保存し、次に [リセット (Reset)] をクリックして変更を実装します。

これで電話機のユーザが、ユーザ オプション Web ページにアクセスできるようになり、電話機のボタンにサービスが関連付けられました。

IP Phone サービスの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」の章を参照してください。回線ボタンの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章と「Configuring Speed-Dial Buttons」の項を参照してください。

機能管理ポリシーの設定

機能管理ポリシー設定でテレフォニー機能を有効または無効にすることで、Cisco Unified IP Phone 8961、9951、9971 での一部のテレフォニー機能の表示を制限できます。電話機の機能管理ポリシー設定で機能を無効にすると、その機能へのユーザのアクセスが制限され、その機能に関連するソフトキーが電話機に表示されなくなります。

また、機能管理ポリシーは、ソフトキーまたはプログラム可能な回線キーのいずれかとして、次の機能の表示も制御します。

- 迷惑呼の発信者 ID
- ピックアップ
- グループ ピックアップ
- その他のピックアップ
- ミートミー
- 品質レポート ツール
- モビリティ

機能管理ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] を選択します。
- [機能管理ポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Feature Control Policy)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックして、一連のポリシーを定義します。
- ステップ 3** 次の設定値を入力します。
- [名前 (Name)] : 新しい機能管理ポリシーの名前を入力します。
 - [説明 (Description)] : (オプション) 説明を入力します。
 - [機能管理の選択 (Feature Control Section)] : デフォルト設定を変更する機能のチェックボックスをオンにします。表 8-5 に、設定できる機能とデフォルト値の一覧を示します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** 次の設定にポリシーを含めることで、ポリシーを電話機に適用します。
- [エンタープライズ パラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] : システム内のすべての電話機に適用されます。
 - [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] : グループ内のすべての電話機に適用されます。
 - [電話の設定 (Phone Configuration)] : 個々の電話機に適用されます。
-

表 8-5 機能管理ポリシーのデフォルト値

機能	デフォルト値
不在転送	有効 (Enabled)
パーク	無効 (Disabled)
ボイスメールに	無効 (Disabled)
会議リスト	有効 (Enabled)
スピードダイヤル	有効 (Enabled)
コールバック	有効 (Enabled)
リダイヤル	有効 (Enabled)
割り込み	有効 (Enabled)
迷惑呼の発信者 ID	無効 (Disabled)
ピックアップ	無効 (Disabled)
グループ ピックアップ	無効 (Disabled)
その他のピックアップ	無効 (Disabled)
ミーティング	無効 (Disabled)
品質レポート ツール	無効 (Disabled)
モビリティ	無効 (Disabled)

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Feature Control Policy」の章を参照してください。

サービスのセットアップ

Cisco Unified IP Phone 8961、9951 および 9971 の Cisco Unified IP Phone サービスにユーザがアクセスするようになります。また、さまざまな電話のサービスにボタンを割り当てることも可能です。これらのサービスは、テキストと画像によるインタラクティブ コンテンツを電話機に表示するための XML アプリケーションとシスコ署名付き Java MIDlet を含んでいます。Cisco Unified IP Phone は、各サービスを個別のアプリケーションとして管理します。サービスの例としては、映画の上映時刻、株式相場、天気予報などがあります。

ユーザがサービスにアクセスできるようにするには、前もって次の作業が必要です。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、デフォルトで提供されないサービスを設定する必要があります。
- ユーザは、Cisco Unified Communications Manager の [ユーザ オプション (User Options)] アプリケーションを使用して、サービスに登録する必要があります。この Web ベース アプリケーションは、IP Phone のアプリケーションをエンド ユーザが設定するための限定的なグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) を提供します。ただし、エンタープライズ登録として設定するサービスにユーザは登録できません。

サービスをセットアップする前に、セットアップするサイトの URL をあらかじめ収集し、それらのサイトにユーザが社内の IP テレフォニー ネットワークからアクセスできることを確認しておきます。(このアクティビティは、シスコによって提供されるデフォルト サービスには適用されません)。

これらのサービスをセットアップするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] を選択します。『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」の章、および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services」の章を参照してください。

これらのサービスを設定した後、Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション Web ベース アプリケーションにユーザがアクセスできることを確認します。ユーザは、設定済みのサービスをこのアプリケーションで選択し、サービスに登録することができます。エンドユーザに提供する必要がある情報の要約については、「サービスへの登録方法および電話機能の設定方法」(P.A-2) を参照してください。



(注)

ユーザ用に Cisco エクステンション モビリティ サービスを設定するには、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Extension Mobility」の章を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager へのユーザの追加

ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加すると、ユーザに関する情報を表示および管理できるようになります。またユーザは、次のタスクを実行できるようになります。

- Cisco Unified IP Phone から、社内ディレクトリや他のカスタマイズ済みディレクトリにアクセスする。
- パーソナル ディレクトリを作成する。
- スピードダイヤルとコール転送の番号をセットアップする。
- Cisco Unified IP Phone からアクセスできるサービスに登録する。

ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ユーザを 1 名ずつ追加するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「End User Configuration」の章を参照してください。

- ユーザを一括して追加するには、一括管理ツールを使用します。この方法では、すべてのユーザに対して同一のデフォルトパスワードを設定することもできます。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Bulk Administration」の章を参照してください。

ユーザ オプション Web ページの管理

ユーザ オプション Web ページでは、電話機のいくつかの機能や設定値をユーザがカスタマイズおよび制御できます。ユーザ オプション Web ページの詳細については、『Cisco Unified IP Phone 8961, 9951, and 9971 User Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。


ユーザへのユーザ オプション Web ページに対するアクセス権限の付与

ユーザがユーザ オプション Web ページにアクセスできるようにするには、管理者がユーザを標準 Cisco Unified Communications Manager エンド ユーザ グループに追加し、適切な電話機をユーザに関連付けておく必要があります。

エンド ユーザ グループへのユーザの追加

ユーザを標準 Cisco Unified Communications Manager エンド ユーザ グループに追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ グループ (User Groups)] を選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
 - ステップ 3** [Standard CCM End Users] リンクをクリックします。対象の標準 CCM エンド ユーザについての [ユーザ グループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4** [グループにエンド ユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 5** [ユーザの検索 (Find User)] ドロップダウン リスト ボックスを使用して、追加するエンド ユーザを探し、[検索 (Find)] をクリックします。
 - ステップ 6** 検索条件に一致するエンド ユーザのリストが表示されます。
 - ステップ 7** 表示されるレコードのリストで、このユーザ グループに追加するユーザのチェックボックスをクリックします。リストが複数のウィンドウにわたっている場合、下部のリンクをクリックすると、さらに検索結果を表示できます。
-
-  (注) 検索結果には、すでにユーザ グループに属するエンド ユーザは表示されません。
-
- ステップ 8** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

ユーザと電話機の関連付け

このユーザに適切な電話機を関連付けるには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] を選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 表示されるレコードのリストで、ユーザのリンクをクリックします。

- ステップ 4** [デバイスの割り当て (Device Association)] をクリックします。
[ユーザ デバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** デバイスの左にあるボックスをオンにして、エンド ユーザに割り当てるデバイスを選択します。
- ステップ 7** [選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] をクリックして、デバイスをエンド ユーザに割り当てます。

エンド ユーザには、必ずユーザ オプション Web ページに関する次の情報を提供してください。

- アプリケーションにアクセスするために必要な URL。この URL は、次のとおりです。
http://<server_name:portnumber>/ccmuser/ (*server_name* は Web サーバがインストールされているホストです)。
- アプリケーションにアクセスするために必要なユーザ ID とデフォルト パスワード。
これらの設定値は、ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加したときに入力した値と同じです (「Cisco Unified Communications Manager へのユーザの追加」(P.8-36) を参照)。

詳細については、次の各項を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「User Group Configuration」の章。
- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「End User Configuration」の章。
- 『Cisco Unified Communications Manager Administrator Guide』の「Role Configuration」の章。

ユーザ オプション Web ページに表示するオプションの指定

デフォルトでは、ユーザ オプション Web ページのほとんどのオプションが表示されます。ただし、次のオプションは、システム管理者が Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [エンタープライズ パラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] の設定値を使用して設定する必要があります。

- 呼出音設定の表示 (Show Ring Settings)
- 回線のテキスト ラベル設定の表示 (Show Line Text Label Settings)
- コール転送の表示 (Show Call Forwarding)



(注) この設定値は、サイトのすべてのユーザ オプション Web ページに適用されます。

ユーザ オプション Web ページに表示されるオプションを指定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
[エンタープライズ パラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [CCMUser パラメータ (CCMUser Parameters)] 領域で、各パラメータ値のドロップダウン リストボックスから次のいずれかの値を選択し、パラメータをユーザ オプション Web ページに表示するかどうかを指定します。
- [はい (True)]: オプションをユーザ オプション Web ページに表示する ([呼出音の設定の表示 (Show Ring Settings)]、[回線のテキスト ラベルの設定の表示 (Show Line Text Label Settings)]、および [不在転送の表示 (Show Call Forwarding)] 以外はこれがデフォルト)。
 - [いいえ (False)]: オプションをユーザ オプション Web ページに表示しない。
 - [すべての設定を表示 (Show All Settings)]: コール転送のすべての設定をユーザ オプション Web ページに表示する (デフォルト)。
 - [すべての設定を非表示 (Hide All Settings)]: コール転送の設定をユーザ オプション Web ページに表示しない。
 - [すべてのコールの転送のみを表示 (Show Only Call Forward All)]: すべてのコールの転送の設定だけをユーザ オプション Web ページに表示する。

機能の設定

ここでは、電話機能の一部を設定するための追加の手順を示します。

自動ポート同期の設定

Cisco Unified CM の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールします。

複数の電話機の設定を同時に行うには、[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configurations)]) で [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)] を有効にします。

Bluetooth プロファイルの設定

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理ページ > [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] に移動します。
- ステップ 2** Cisco Unified CM に関連付けられた電話機のリストからユーザの電話機を探します。
- ステップ 3** 電話機の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
- ステップ 4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] レイアウト エリアに移動し、[Bluetooth プロファイル (Bluetooth Profiles)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切なプロファイルを選択します。
- ハンズフリー プロファイルは、デフォルトで選択されています。
- 更新する [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで、任意の設定に対して [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスをオンにします。
- このチェックボックスをオンにしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。

- [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで設定したパラメータは、さまざまなデバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウと [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示されることがあります。

これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、優先される設定は、次の順序で決定されます。

1. [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値
2. [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
3. [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定値。

コールの転送通知の設定

[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに表示される情報を設定します。次の表では、[コールの転送通知 (Call Forward Notification)] フィールドについて説明します。

表 8-6 [コールの転送通知 (Call Forward Notification)] フィールド

フィールド	説明
発信者名 (Caller Name)	このチェックボックスをオンにした場合、発信者名が通知ウィンドウに表示されます。 デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。
発信者番号 (Caller Number)	このチェックボックスをオンにした場合、発信者番号が通知ウィンドウに表示されます。 デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。
転送元番号 (Redirected Number)	このチェックボックスをオンにした場合、コールを最後に転送した発信者に関する情報が通知ウィンドウに表示されます。 例：発信者 A が B にコールを発信したが、B はすべてのコールを C に転送し、C はすべてのコールを D に転送した場合、D に対して表示される通知ボックスには、発信者 C の電話機情報が表示されます。 デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。
宛先番号 (Dialed Number)	このチェックボックスをオンにした場合、コールの最初の受信者に関する情報が通知ウィンドウに表示されます。 例：発信者 A が B にコールを発信したが、B はすべてのコールを C に転送し、C はすべてのコールを D に転送した場合、D に対して表示される通知ボックスには、発信者 B の電話機情報が表示されます。 デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。

クライアント識別コードの設定

コールの発信時にクライアント識別コード（CMC）の入力を必須にするには、[コール ルーティング（Call Routing）] > [クライアント識別コード（Client Matter Codes）] ウィンドウで次のフィールドを設定します。

表 8-7 CMC フィールド

フィールド	説明
クライアント識別コードの要求（Require Client Matter Code）	このチェックボックスでは、コールの発信時に CMC の入力をユーザに求めるかどうかを制御します。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Route Pattern Configuration」の項を参照してください。

デュアルバンク情報の設定

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス（Device）] > [デバイスのデフォルト（Device Defaults）] を選択します。
- ステップ 2** [非アクティブ ロード情報（Inactive Load Information）] フィールドで、ロード情報をチェックします。
- ステップ 3** [一括管理（Bulk Administration）] > [インポート/エクスポート（Import/Export）] > [エクスポート（Export）] > [デバイスのデフォルト（Device Defaults）] ウィンドウで、エクスポート ジョブをスケジュール設定します。
- ステップ 4** エクスポートされた tar ファイルをダウンロードし、untar します。
- ステップ 5** エクスポートされた CSV ファイルでファイル形式をチェックし、その CSV ファイルに、値が正しい [非アクティブ ロード情報（Inactive Load Information）] の列があることを確認します。

CSV ファイルの値は、Cisco Unified CM の管理ウィンドウの [デバイスのデフォルト（Device Default）] 値と一致する必要があります。

強制承認コードの設定

コールの発信時に強制承認コード（FAC）の入力を必須にするには、[コール ルーティング（Call Routing）] > [強制承認コード（Forced Authorization Code）] で次のフィールドを設定します。

表 8-8 FAC フィールド

フィールド	説明
強制承認コードの要求（Require Forced Authorization Code）	FAC の入力をユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。
承認レベル（Authorization Level）	コールの発信を承認されるために、ユーザが入力する必要があるコード。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Route Pattern Configuration」の項を参照してください。

着信コール Toast タイマーの設定

着信コール Toast（着信コール通知ウィンドウ）がユーザの電話機に表示される時間を設定できます。次のいずれかの Cisco Unified Communications Manager ウィンドウでこの機能を設定します。

- [システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]
- [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の設定 (Phone Configuration)]

表 8-9 [着信コール Toast タイマー (Incoming Call Toast Timer)] フィールド

フィールド	説明
着信コール Toast タイマー	Toast が表示される時間を秒単位で指定します。この時間には、ウィンドウのフェードインとフェードアウトの時間も含まれます。 指定できる値は、3、4、5、6、7、8、9、10、15、30、および 60 です。 デフォルトは 5 です。

ピア ファームウェア共有の設定

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理ページ > [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] に移動します。
- ステップ 2** Cisco Unified CM に関連付けられた電話機のリストからユーザの電話機を探します。
- ステップ 3** 電話機の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
- ステップ 4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] レイアウトエリアに移動し、[ピア ファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing)] ドロップダウンリストボックスから [有効 (Enable)] を選択します。

ピア ファームウェア共有は、デフォルトで有効になっています。

更新する [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで、任意の設定に対して [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスをオンにします。

- このチェックボックスをオンにしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。
- [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで設定したパラメータは、さまざまなデバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウと [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示されることがあります。

これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、優先される設定は、次の順序で決定されます。

1. [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値
2. [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
3. [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定値。

リモート ポート設定

Cisco Unified CM の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールします ([スイッチ ポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration)] または [PC ポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration)])。

複数の電話機の設定を同時に行うには、[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configurations)]) で [リモート ポート設定 (Remote Port Configuration)] を設定します。

